

# 一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ

シリーズ/NO 146号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

## 駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期21年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4200日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は273名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



## 3泊4日強行スケジュールの「沖縄・抵抗と連帯の現場へ」に参加した

11月21日(木)午後12時那覇空港に集合して、24日(日)午後1時同空港で解散した、「PARC 自由学校アクションツアー2024～抵抗と連帯の現場へ～」に総勢22人の市民参加者とともに行動した。(初日新越谷駅発の羽田空港行のバスに午前5時50分に乗車したのだが、小雨の中道路混雑のため羽田着は予定より大幅に遅れてしまい、予約していた飛行機に乗り遅れた。そのため次の便に切り替えて何とか那覇空港での集合時間に間に合ったのだが。)主催は、特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター自由学校で、毎年同様の沖縄の歴史と地元の研究者や市民活動家の話を聞きながらの活動の指針を学ぶ企画をしている。参加者の中で地方議員は私だけではあった



が、自治体主催の調査活動とは一味も二味も違っており、辺野古湾での基地建設工事調査のために小舟に乗って

船上から海上保安庁の警備隊との接触や、名護市の国立ハンセン病療養所愛楽園の責任者からの説明や施設内敷地にある戦時中に入所者による手彫りの防空壕の見学など、どれもこれも刺激的なシーンが連続した。

ただそれだけに正に分刻みの日程とバスによる移動時間の長さとともに民泊先での大部屋での“雑魚寝”や共同で使用するシャワーだけの入浴や、寝間着やタオルの持参等のため帰宅してどっと疲労が襲った。

しかし、連日気候は半そでのポロシャツ一枚でも過ごすことが出来たのは幸運でもあった。

初日21日、那覇空港から貸し切りバスに参加者が全員乗り込み、午後3時頃2014年7月7日から連続3791日間も取り組んでいる地元市民による名護市の辺野古基地建設反対の座り込み行動に激励と連帯のため一緒に座り込んだ。(昼食はバスの中で羽田空港で買ったパンを飲み込んだ。この時間帯も参加者の自己紹介や基地反対の活動報告が続く)

抗議の座り込みは、土砂を搬入する大型トラックが出入りする道路に面した出入口に数十人の市民が抗議のプラカードを持って携帯用の椅子に座り横一列、二列に並ぶ。(これらのグッズは抗議行動の主催者によって全て準備して頂いていた)入口には民間警備会社の社員が入口一杯に整然と並びその顔は真っ黒に日焼けして、一切の表情はないロボットの様だ。一定の抗議時間が過ぎると次つぎに警察による“ごぼう抜き”に移るのだが、警官(顔が特定出来ないように全員マスクとサングラスをかけている。以前は市民からの撮影によって顔がさらされたので、このいで立ちとなったのだろう。私と共に参加した20歳の女子大学生は、この“ごぼう抜き”との言葉も知らず、更に“ごぼう抜き”の最中の警官にありがとう、と言葉をかけていたので、理由を聞いたら毎日(裏へ)

